

報道関係者各位

ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)
2024年11月6日
PCI-RE2024017

New Model ROYAL ENFIELD BEAR 650 登場

- BEAR 650(ベア ロクゴーマル)はINT650をベースに、エディ・マルダー(通称:ファスト・エディ)が達成した1960年のビッグ・ベア・ランでの歴史的勝利にインスパイアされた60年代の魂を宿したスタイリッシュなスクランブラー
- ライダーの直感に応えるロイヤルエンフィールドが誇る650cc パラレルツインを原動力としたBEAR 650は、伝統的なスクランブラーのスタイリングと妥協のないスピリットを融合
- フロント19インチ/リア17インチのコンビネーションと堅牢なデュアルパーパスタイヤ、スクランブラースタイルのシート、キックアップされたリアルーフ、184mmの最低地上高はスタイルと個性を求めるライダーにとって完璧な相棒





「サーキットに出れば、グリーンフラッグが振られ、そして戯言はなくなる。」

エディ・マルダー

現実からの隔絶、目に余るほどの大胆さ、結果への完全な無関心、そして直感に従うこと。これはモーターサイクルレーサーの考え方を最もよく表しており、1960年にカリフォルニアの過酷な砂漠レースであるビッグ・ベア・ランを制したチェッカーズ・モーターサイクル・クラブの16歳のルーキー「エディ・マルダー」にぴったりの表現です。

1960年、カリフォルニアのモハーベ砂漠を舞台に、これまでに目撃されたことのない最も過酷で最大のレース「ビッグ・ベア・ラン」が開催されました。ルールも道路も十分なテクノロジーもなく、観客はサボテンとコヨーテだけという状況で765人のライダーが出場、完走はわずかに197人。エディは500ccのロイヤルエンフィールド・フューリーにまたがり、本能と揺るぎない決意、そして直感に突き動かされ、4時間21分というトップタイムでフィニッシュラインを通過しレース界に衝撃を与え、時代を超えて語り継がれる伝説に火をつけることとなりました。

レースでのターニングポイントは何だったかと尋ねられたエディは「制御を失って崖から転げ落ちたとき順位は13位でした。バイクを引き上げダメージの確認をしました。ハンドルバーは真後ろに曲がり、ヘッダーパイプはシリンダーヘッドから外れていました。バーを持ち上げて元の形に戻し、ヘッダーパイプは蹴って元の位置に戻しました。壊れたショックアブソーバーはどうすることもできなかったのもので、残りのレースは1本だけで走りました。」

それから64年後の今、エディの大胆不敵な精神と不屈の気概にインスピレーションを受けたスタイリッシュで多目的なスクランブラー「ROYAL ENFIELD BEAR 650」として世界に送り出されることになりました。

ROYAL ENFIELD

自分の直感を信じ、他とは一線を画すライダーのためにデザインされた BEAR 650 は単なるモーターサイクルではなく、旅のパートナーであり、自分の意志を表現するツールとしてライダーと共にあります。

多彩な機能、堅牢なエンジニアリング、そして独特のスクランブラーの美学を備えた BEAR 650 は世界中のライダーの走行体験を再定義し、乗る度に自分の道を切り開くようライダーに呼びかけます。

ロイヤル エンフィールドの最高経営責任者 B・ゴビンダラジャンは BEAR 650 のインスピレーション、コンセプト、デザインについて次のように語っています。

「私たちは常にコミュニティーや偉業を成し遂げたライダーたちから深くインスピレーションを受けてきました。BEAR 650 のインスピレーションは、伝説的な物語であるエディと 1960 年のビッグ・ベア・ランから得たものです。BEAR 650 はリアルな本能、純粋な衝動、あくなき決意といったエディの精神を伝え、真のスクランブラーが持つ「全開」の精神と DNA を体現しています。そして都会のストリートでも埃っぽいトレイルでも、あらゆる地形でライダーの自信とコントロール性を発揮できるように作られています。BEAR 650 は性能だけでなく、多用途性や困難を乗り越える力、そして妥協を許さない精神も兼ね備えています。」

“我々は直感を信じる。そして直感は叫ぶ！”

ロイヤル エンフィールドの世界的に有名な 650 ツインプラットフォームを採用した BEAR 650 は、ライダーの直感を燃料としています。スムーズなパフォーマンスとキャラクターで知られるこのエンジンは、最高出力 47bhp (34.6kW) / 7,250rpm、最大トルク 56.5Nm / 5150rpm を発揮。革新的な 2-1 エグゾーストシステムはトルクを向上させ、より広いパワーバンドを提供する一方、コンパクトなシングルサイレンサーは重量を軽減し BEAR 650 の美観を高めています。

“スクランブルスタイル”

レトロ風で堅牢なタイヤ、オープンなスクエアレッドブロック、パイピングされたスクランブラーシート、2-1 エグゾースト、キックアップされたリアループ、競技用ナンバーボード、高められた最低地上高など、BEAR 650 の各要素は真のスクランブラーの DNA を伝えています。スクランブラーの美学をさらに際立たせているのが、カリフォルニアの活気あふれるスピリットにインスパイアされた 5 色の印象的なカラーリングです。ボードウォーク・ホワイト、ペトロール・グリーン、ワイルド・ハニー、ゴールデン・シャドー、そしてエディの象徴的なレース勝利番号に敬意を表した特別カラーエディション、トゥー・フォー・ナインが用意されています。これらすべての要素が組み合わさることで、BEAR 650 は 60 年代のカリフォルニアの砂漠でのレースシーンのスピリットとスタイルを体現するスクランブラーとなります。

ROYAL ENFIELD



ボードウォーク・ホワイト(Boardwalk White)



ペトロール・グリーン(Petrol Green)



ワイルド・ハニー(Wild Honey)



ゴールデン・シャドー(Golden Shadow)



トゥー・フォー・ナイン(Two Four Nine)

ROYAL ENFIELD

“バッドローダーの真髓”

スクランブラーの真髓である「ヤンチャ」な走りを求める人のために BEAR 650 はシャシーを改良強化。フロントには 130mm 可動の SHOWA 製 USD ビッグピストンフォーク、リアには 115mm 可動の SHOWA 製ツインチューブ RSU を装備。184mm と高い最低地上高は、デュアルパーパスタイヤを装着したフロント 19 インチ、リア 17 インチの組み合わせと相まってスクランブラーらしさを演出しながらもグリップを向上、卓越したオフロード走行を可能にします。

“現代のスクランブラーの必需品”

レガシーにインスパイアされながらも多くの面で現代的な BEAR 650 はトリップパーダッシュを搭載しています。全く新しい TFT ディスプレイは移動中でも簡単に視認できるシンプルなユーザーインターフェイスと操作性を備え、ブラックのアルミニウム製スイッチキューブとジョイスティックは簡単かつ直感的な操作でトリップパーダッシュを使用することを可能にします。

#InGutWeTrust #GutWants #REBear650 #PureMotorcycling #RoyalEnfield

<ロイヤルエンフィールドについて>

ロイヤルエンフィールドは 1901 年の創業以来、美しいオートバイを作り続けている世界最古のモーターサイクルブランドです。イギリスにルーツを持ち 1955 年にインド・マドラスに製造工場を設立し、これを足がかりにロイヤルエンフィールドはインドの中型二輪車セグメントの成長を先導してきました。ロイヤルエンフィールドは魅力的で、シンプルで、親しみやすく、乗るのが楽しい、探検と自己表現のための乗り物です。これは私たちが Pure Motorcycling (ピュア・モーターサイクリング) と呼ぶアプローチです。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには 2024 年 8 月に日本でも発売したカスタムスピリットの真髓とも言える「SHOTGUN 650」、90 年に渡る伝統を継承した新たな「BULLET 350」、アイコンックな単気筒モデル「CLASSIC 350」、前後 17 インチキャストホイールのスポーツモデル「HUNTER 350」、スモールクルーザー「METEOR 350」、並列二気筒エンジンを採用した「INT650」と「CONTINENTAL GT650」、60 年にわたるクルーザーの DNA が凝縮された「SUPER METEOR 650」、新設計で同社初の水冷エンジンが搭載されたアドベンチャーツアラー「NEW HIMALAYAN」、などがあります。ライダーと情熱的なコミュニティは各地方、地域、国際レベルで開催される豊富なイベントによって育まれています。特に、毎年インド・ゴア州で開催し何千人ものロイヤルエンフィールド・ファンが集まる「MOTOVERSE」や、もっとも過酷な地形と最高峰の峠を越える巡礼の旅、「ヒマラヤ・オデッセイ」などは有名です。

Eicher Motors Limited (アイシャーモーターズ・リミテッド) の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に 2,100 以上の販売ディーラーを、また世界 60 カ国以上に約 850 の販売ディーラーを展開しています。またロイヤルエンフィールドは、イギリスのブランティングソープとインドのチェンナイの 2 箇所に、テクニカルセンターと呼ぶ先進的な開発部門を有しています。そしてチェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルの 2 箇所に、最新鋭の生産施設を持つ工場も有しています。インド国外に目を向けると、ロイヤルエンフィールドは、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの 5 ヶ所に最新の CKD (コンプリート・ノックダウン: 製造国から車両すべての部品を輸入、現地で組み立てて完成車とする方法) 組立施設を有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドやモーターサイクルに関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalenfield.co.jp>

全国の ROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalenfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先: ロイヤルエンフィールドジャパン (総輸入発売元: ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalenfield.co.jp>